

平成23年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分 : 図書館活動における功績
2. 対象者 : 信州大学附属図書館 SOAR 開発チーム
3. 件名 : 信州大学学術情報オンラインシステム (SOAR) を用いた研究情報の発信・分析の効果的支援への取り組み
4. 結果 : 採択
5. 理由 :

本件は、研究者の情報発信を目的とする情報システムを開発・運用し、研究者総覧と機関リポジトリのシステムとの相互連携、データの一元化により、研究者の負担軽減と視認性向上を図るとともに、研究者・研究組織の統計分析を可能とした研究支援活動である。

具体的には、研究者総覧と機関リポジトリを相互連携させた学術情報オンラインシステムにより、提供する研究情報の充実、データ入力作業の軽減、データ活用の利便性向上を図ったことに加え、視認度評価分析システムにより、機関リポジトリの詳細なダウンロード統計と Web of Science や Scopus 等の引用分析データからの被引用数との分析を可能にし、大学や研究機関の研究がどのように外部から評価されているのか、個々の研究者の研究論文のどこに注目されているのかを知るための一つの指標を得られるようにしている。また希望する学術機関にはシステムのモジュールを無償提供するなど、研究支援への意欲的な取り組みである。

信州大学のこれら一連の研究支援活動は、次の点で「国立大学図書館協会賞選考基準」第4条第1項第1号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。

研究者総覧と機関リポジトリのシステム連携やデータ一元化を進めて、研究者の入力作業等の負担軽減や研究者・研究活動の視認性向上を図り、視認度評価分析システムの開発による研究者へのフィードバックとして、定量的指標による評価を可能としたことは、業務改善において顕著な成果が認められるとともに、先行的・独創的意義を有する業務事例として評価できる。

なお、プログラムの開発においては図書館員が主体的な役割を担っており、またモジュールの無償提供においては機関リポジトリの多様なプラットフォームへの適用を指向しており、図書館と図書館員の役割についても社会の認識を高めたものとして評価できる。